

## 1 はじめに

これまで人吉球磨では、村山茂会長（球磨中学校）を中心に、12校の保健体育科担当で研究を進めてきた。今年度は発表大会に向けて、一丸となり研究に取り組んできた。全ての生徒が楽しさや達成感を味わえる保健体育学習の実現に向けて、研究を行った。

## 2 人吉球磨中学校体育研究会主題

「主体的・対話的で深い学びを実現する保健体育科学習の創造」  
－全ての生徒が楽しさや達成感を味わえる授業を目指して－

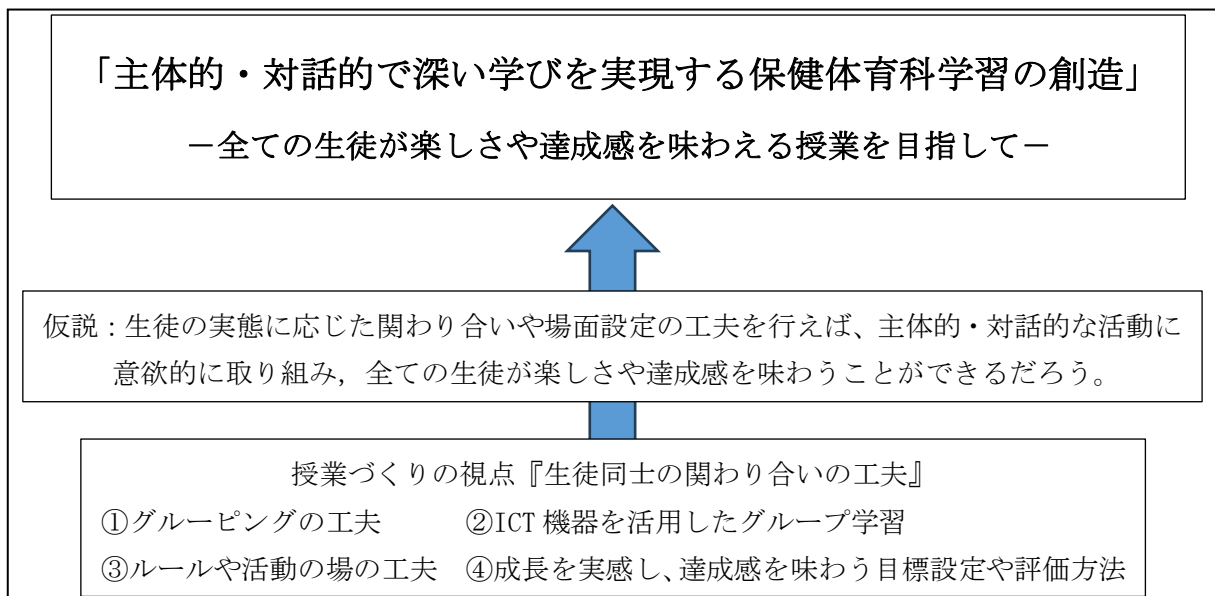
## 3 研究の概要

### (1) 主題設定について

中学校学習指導要領（保健体育科編）に示されている、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成のためには、生徒が「楽しさ」と「達成感」を味わえる授業の在り方が重要だと考える。そのためには、生徒のアンケートから明らかになっているように、「わかった、できた」、「以前の自分より成長できた」、「グループの一員として友達と交流しながら活動できた」といった経験が必要である。

そこで、授業づくりの4つの視点を設定し、「全ての生徒が楽しさや達成感を味わえる授業を目指して」というサブテーマを掲げ、本研究に取り組むことにした。

## 4 研究構想図



## 5 研究の実際

### ① グルーピングの工夫

①グルーピングの工夫について  
※アンケートより  
(R4人吉球壇中学校1・2年生)

授業では、友達と協力して活動したいか

活動したい(96%)  
活動したくない(4%)

①グルーピングの工夫について


友達と協力して活動したくない理由について

- コミュニケーションをとるのが苦手
- 運動が苦手と一緒にするのが恥ずかしい
- 友達に教えるのが苦手

①グルーピングの工夫について

グループ分けて重視すること

- リーダーシップを発揮する人がいること
- 話しやすさや聞きやすさ
- 運動能力を均等に分ける
  - ・インクルーシブの視点で編成
  - ・苦手な生徒も安心して活動できるように



生徒の声

グルーピングに生かす

### ② ICT 機器を活用したグループ学習

②ICT機器を活用したグループ学習

ICT機器の効果的な活用

- バトパスの**一瞬のやり取り**を録画
- タイミングや手の出し方等を**確認、改善**
- 『どこから』『何を撮るか』



ポイントを焦点化

②ICT機器を活用したグループ学習

ICT機器の効果的な活用

- 前時→本時への**つながり**
- めあて設定や**課題把握**に役立つ



前時と本時の接続

②ICT機器を活用したグループ学習

ICT機器の効果的な活用

- 2階から**撮影**
- 目標とする動きを**グループで共有**
- リーダーが**具体的に解説**→苦手な生徒への支援



撮影場所の工夫

### ③ ルールや活動の場の工夫

③ルールや活動の場の工夫

ルールの工夫

【水上学園7年生版バスケットボール ルール】

- ・ハーフコートで行い、攻守交替のタイミングは
- ①得点した時 ②守備側がボールを奪った時
- ・シュートがゴールを通過すると2点、
- リングに当たると1点
- ・ゴール前に守備側が入ることのできない1m四方のフリーゾーンを設置する。攻撃側は**その中でバスを受けた時点で1点、さらにゴールすると2点追加する。**

生徒に合わせたルールの工夫

生徒の実態に応じて、  
学習課題に迫る工夫



学習課題に迫るルール

③ルールや活動の場の工夫

活動の場の工夫

自己の課題に応じて生徒が練習を選択できるよう、活動の場を複数設置



録画してフォームをチェックしよう!

受け渡しまでのタイムを計ろう!

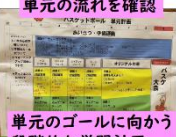
生徒自身が活動の場を選択

### ④ 成長を実感し、達成感を味わう目標設定や評価方法

④成長を実感し、達成感を味わう目標設定や評価方法

毎時間の振り返りと単元を通じた成長の実感

単元の流れを確認



単元のゴールに向かう段階的な学習計画

競技の特性からどんな楽しさや達成感を味わえるか生徒と共有

④成長を実感し、達成感を味わう目標設定や評価方法

毎時間の振り返りと単元を通じた成長の実感



振り返りの視点を主運動前に提示

個人→グループで振り返り、全体で共有

- ・単元の見通しをもたせる
- ・生徒それぞれの目標設定
- ・振り返りの視点を事前に提示

## 6 研究の成果と課題

(成果) グルーピングの工夫や、生徒の実態に応じたルールや活動の場の工夫を行ったことで、運動が苦手な生徒も安心して活動できる環境を整えることができた。

(課題) 3学年を通じた学習内容の見通しをもち、どの学年で「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」等を精選しておく必要がある。また、単元導入時のオリエンテーションでは、単元のゴールのイメージだけでなく、生徒の個人目標や目指す姿を具体的に定める活動が必要である。